

調査の概要

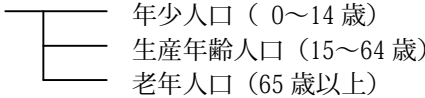
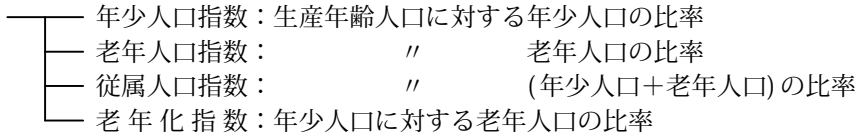
- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：毎年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

この調査は、平成27年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横浜・川崎	横浜市、川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県 西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

用語の解説

- 1 年 齢：調査日前日による満年齢
- 2 年齢（3区分）別人口 
- 3 年齢構造指数 
- 4 性 比：女性100人に対する男性の数
- 5 平均年齢の算出方法
$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢(各歳)} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{ (満年齢後の経過月数調整値)}$$
(小数点第3位以下切り捨て)

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、昭和51年1月1日現在調査（昭和50年10月1日現在実施の国勢調査による年齢別人口を基礎として推計）から本県が毎年実施しているものであり、本報告書に使用しているそれ以前の数値は、大正9年から総務省が5年ごとに実施している国勢調査の統計を使用しています。
- 2 年齢不詳は、平成27年国勢調査の数値で、国勢調査の中間年次（平成28年～32年）はその数値となります。
- 3 全国の数値は、総務省統計局発行「人口推計月報」による平成28年1月1日現在推計人口（確定値）を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。
- 6 人口の総数には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 7 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。
- 8 平成28年1月1日現在の「第2表 年齢別異動人口」等は、国勢調査の翌年のため掲載していません。

調査結果の概要

1 年齢（3区分）別人口

- (1) 平成28年1月1日現在の神奈川県は、912万8037人(男性455万8967人、女性456万9070人)です。【表1、3、4参照】
- (2) 年齢(3区分)別人口は、年少人口(0～14歳)113万7781人、生産年齢人口(15～64歳)573万5512人、老年人口(65歳以上)217万1818人となり、老年人口が年少人口を103万4037人上回っています。【図1、表1、11参照】
- (3) 平成27年1月1日現在の調査(以下「前年調査」という。)に比べると、総人口は2万7691人増加しており、年少人口は2万2235人減少、生産年齢人口は3万4748人減少し、老年人口は5万3976人増加となっています。【図2、表1、6、11参照】
- (4) 年齢(3区分)別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.2ポイント低下し12.6%(全国値12.5%)、生産年齢人口は0.4ポイント低下し63.4%(同60.7%)、老年人口は0.6ポイント上昇し24.0%(同26.8%)となっており、全国値と比べると、生産年齢人口では2.7ポイント高く、老年人口では2.8ポイント低くなっています。【図3、表1、6参照】
- (5) 年齢構造指数のうち、年少人口指数は19.8、老年人口指数は37.9となっており、この2つの指数を合わせた従属人口指数は57.7で、これによると、1.7人の現役で1人の年少者又は高齢者を支えていることになります。また、老年化指数は190.9で、年少者1人に対し高齢者1.9人の割合となっています。なお、これらの値はすべて全国値(年少人口指数20.6、老年人口指数44.2、従属人口指数64.8、老年化指数214.0)より低くなっています。【図4、表2参照】

図1 人口ピラミッド〈年齢(各歳)、男女別人口〉 平成28年1月1日現在

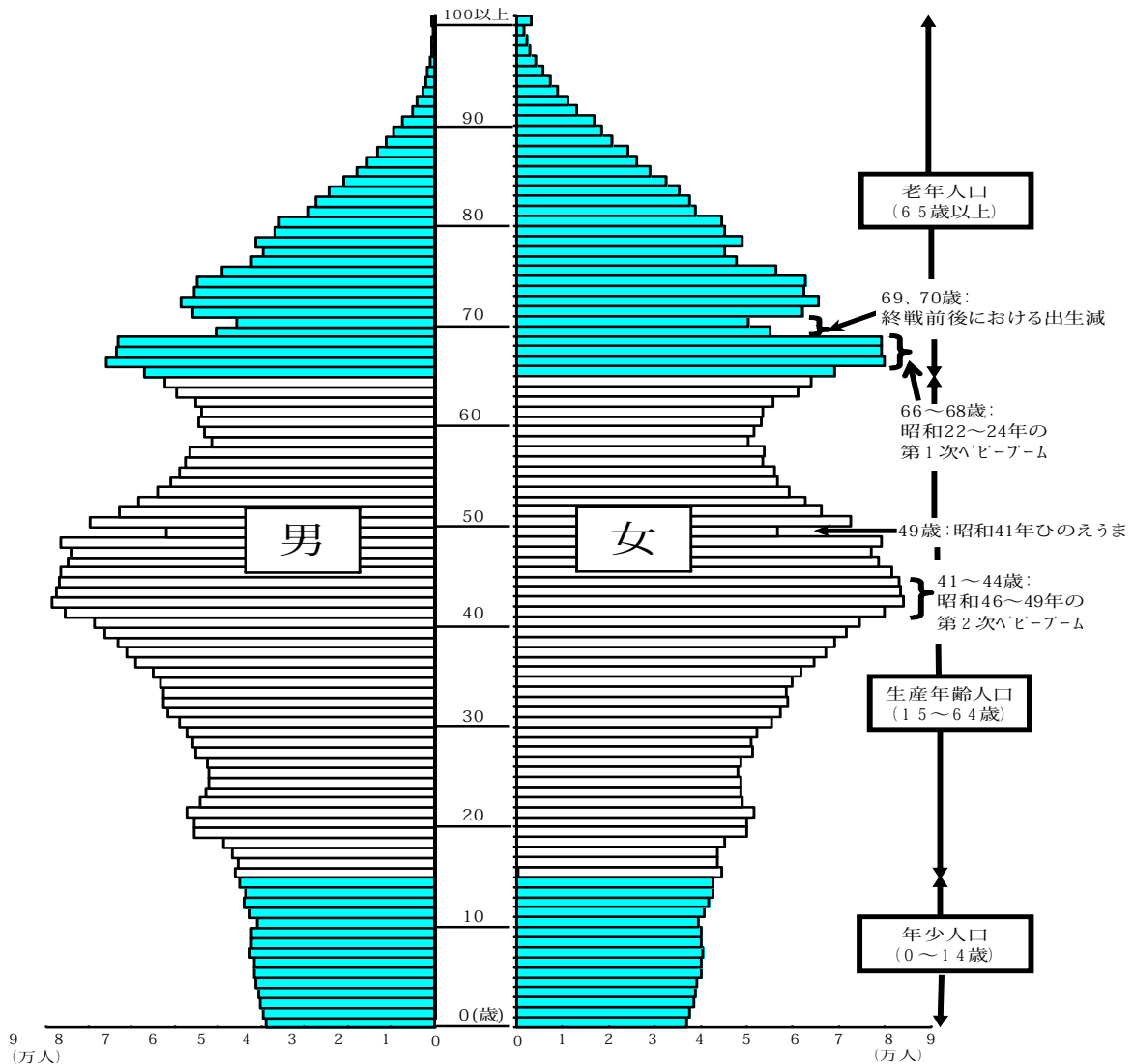


図2 年齢（3区分）別人口の推移

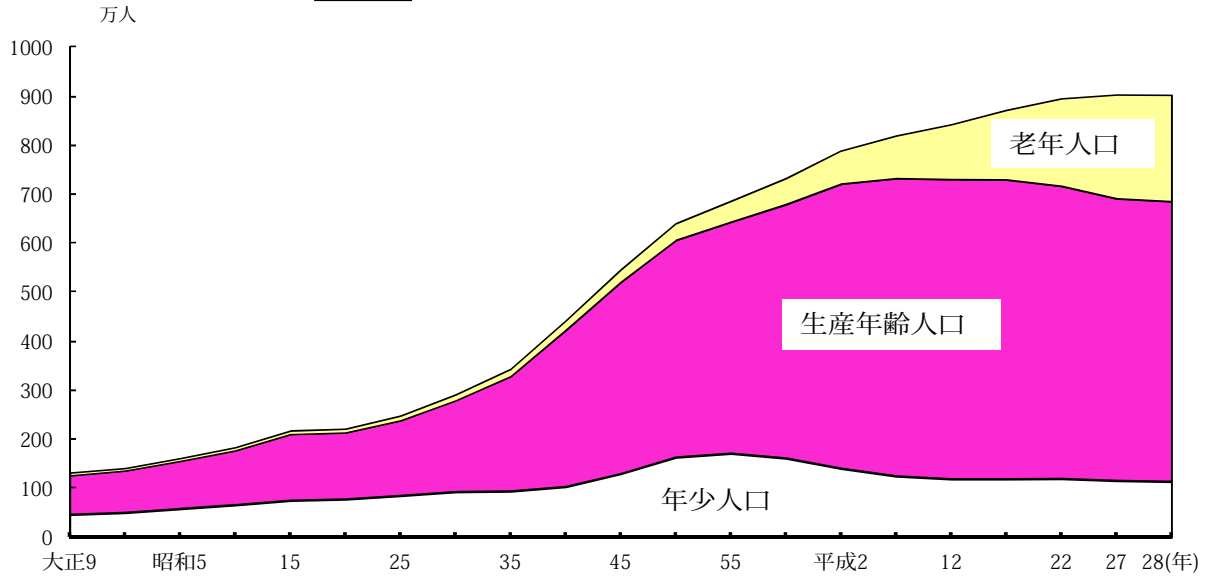
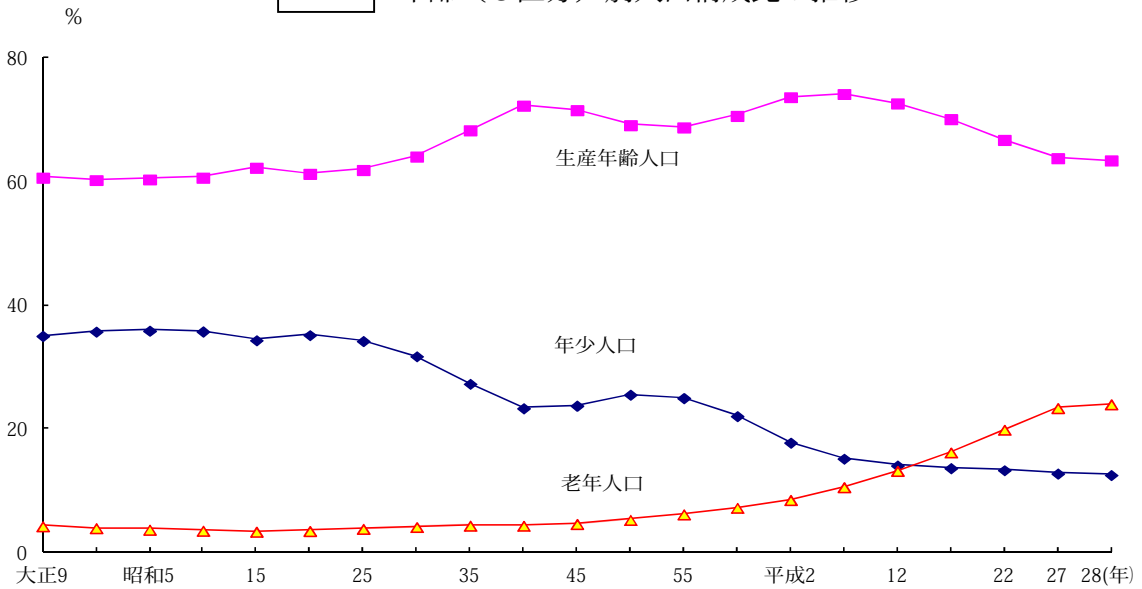
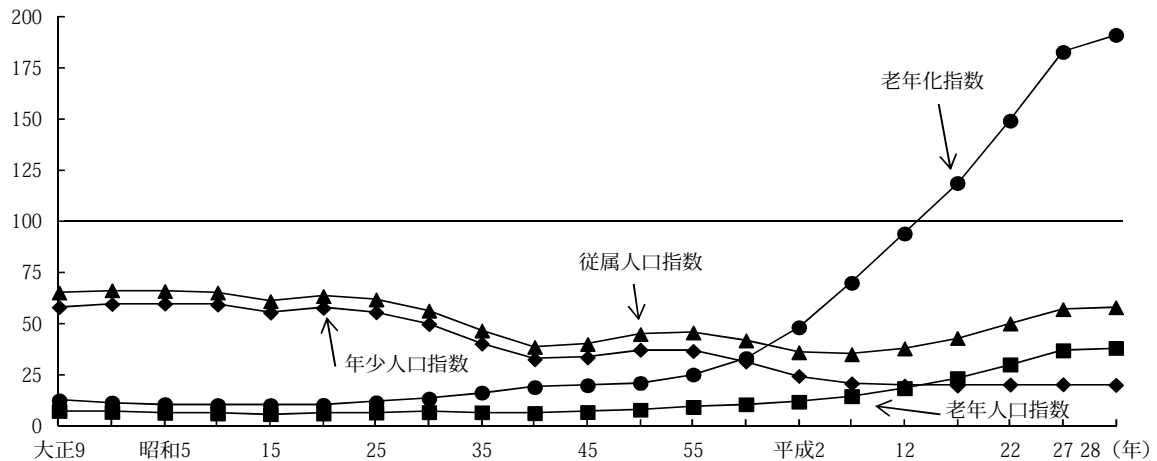


図3 年齢（3区分）別人口構成比の推移



(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出している。

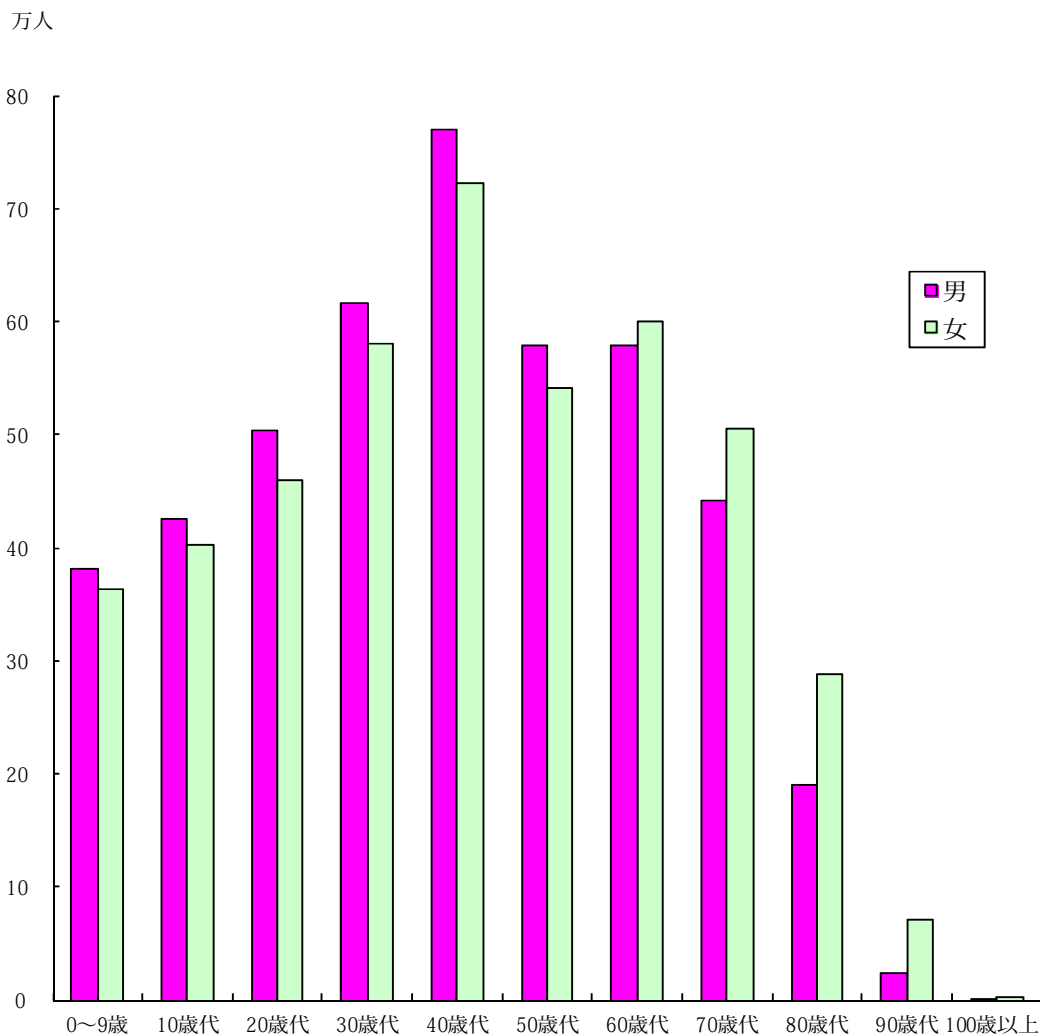
図4 年齢構造指数の推移



2 年齢（10歳階級）別人口

- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、40歳代が149万2623人(人口構成比16.5%)と最も多く、次いで30歳代の119万6795人(同13.2%)、60歳代の117万8240人(同13.0%)の順となっています。【表3参照】
- (2) 前年調査より0歳代、20歳代、30歳代、70歳代、100歳以上の人口は減少し、その他の階級は増加しています。【表3参照】
- (3) 男女別人口で見ると、男性では40歳代が77万147人(男性に占める割合は17.1%)と最も多く、次いで30歳代の61万6384人(同13.7%)、50歳代の57万9254人(同12.8%)の順となっています。
女性でも40歳代が72万2476人(女性に占める割合は15.9%)と最も多く、次いで60歳代の59万9891人(同13.2%)、30歳代の58万411人(同12.8%)の順となっています。
【図5、表3参照】

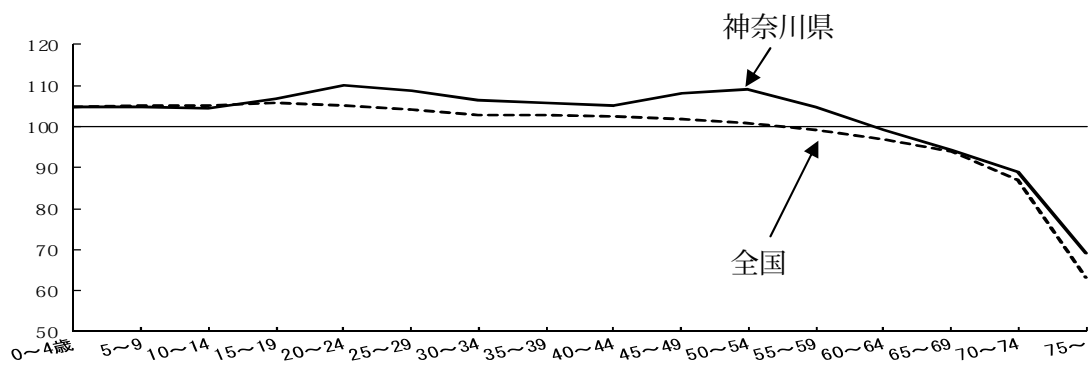
図5 年齢（10歳階級）別、男女別人口数



3 性 比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が455万8967人、女性が456万9070人で、女性が1万103人多く、性比(女性100人に対する男性の数)は99.8で、前年調査に比べると0.1ポイント低下していますが、全国値(94.8)と比べると5.0ポイント上回っています。【表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、20～24歳が110.2と最も高く、続いて50～54歳が109.0となっています。
また、これらの年齢階級の性比は、全国値より著しく高く、50～54歳は8.2ポイント(全国値100.8)、20～24歳は4.9ポイント(同105.3)、それぞれ全国値を上回っています。【図6、表4参照】

図6 年齢（5歳階級）別性比



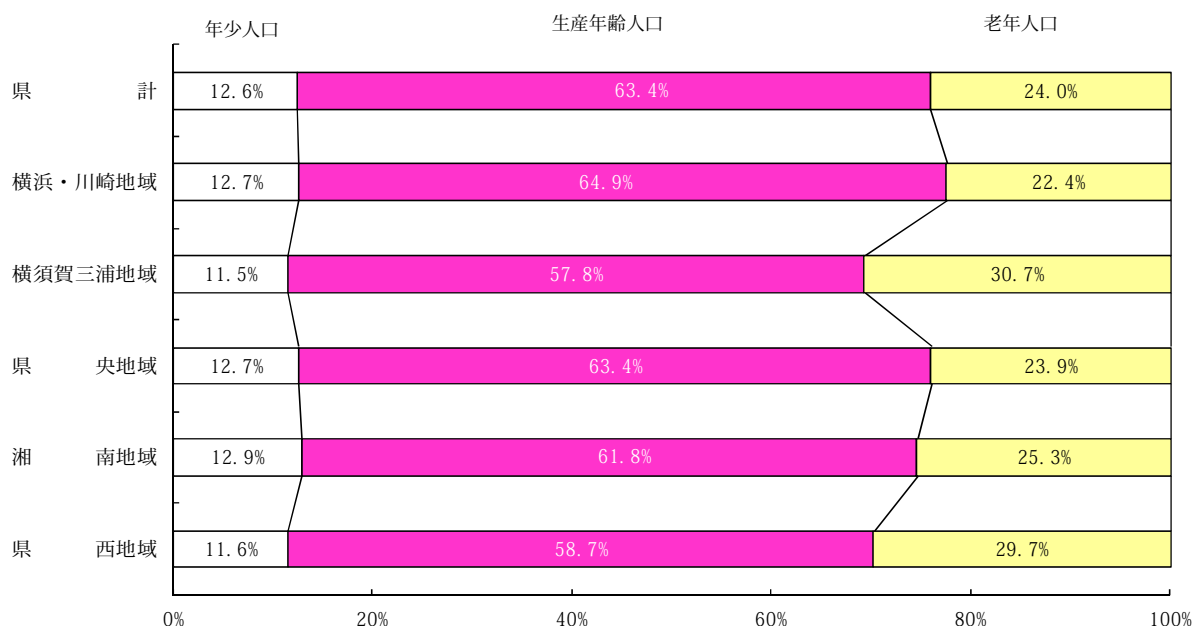
4 平均年齢

- (1) 平均年齢は 45.07 歳で、前年調査に比べ 0.31 歳高くなり、毎年、高齢化が進んでいます。
【表 5 参照】
- (2) 男女別平均年齢は、男性が 43.85 歳(前回調査に比べ 0.31 歳上昇)、女性が 46.29 歳(同 0.32 歳上昇)で、男女を比べると男性が 2.44 歳低くなっています。【表 5 参照】
- (3) 地域別平均年齢は、横須賀三浦地域の 48.47 歳が最も高く、次いで県西地域の 48.12 歳、湘南地域の 45.50 歳の順となり、最も低いのは横浜・川崎地域の 44.38 歳となっています。
【表 7 参照】

5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 県内 5 地域（横浜・川崎、横須賀三浦、県央、湘南、県西）別の年齢（3 区分）別人口構成比は、年少人口では湘南地域が 12.9% と最も高くなっています。最も低いのは横須賀三浦地域の 11.5% となっています。【図 7、表 6 参照】
- (2) 生産年齢人口では、横浜・川崎地域が 64.9% と最も高く、県央地域が 63.4%、湘南地域が 61.8% の順となっています。一方、最も低いのは横須賀三浦地域の 57.8%、次いで県西地域の 58.7% となっています。【図 7、表 6 参照】
- (3) 老年人口では、横須賀三浦地域が 30.7% と最も高く、次いで県西地域の 29.7%、湘南地域の 25.3% の順となり、最も低いのは横浜・川崎地域の 22.4% となっています。
【図 7、表 6 参照】

図7 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比



(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出している。